

中村哲

映画上映会

人は人のために働いて
支え合い、
人のために死ぬ。
結局はそれ以上でも
それ以下でもない。
これは人間の仕事である。

中村哲は問う——“働く”とは何か、“仕事”とは何か、そして“平和”とは！

2025 年 5 月 17 日 (土)

越前市文化センター 大ホール

医師中村哲の 仕事・働く ということ

語り◎室井滋 朗読◎塚本晋也

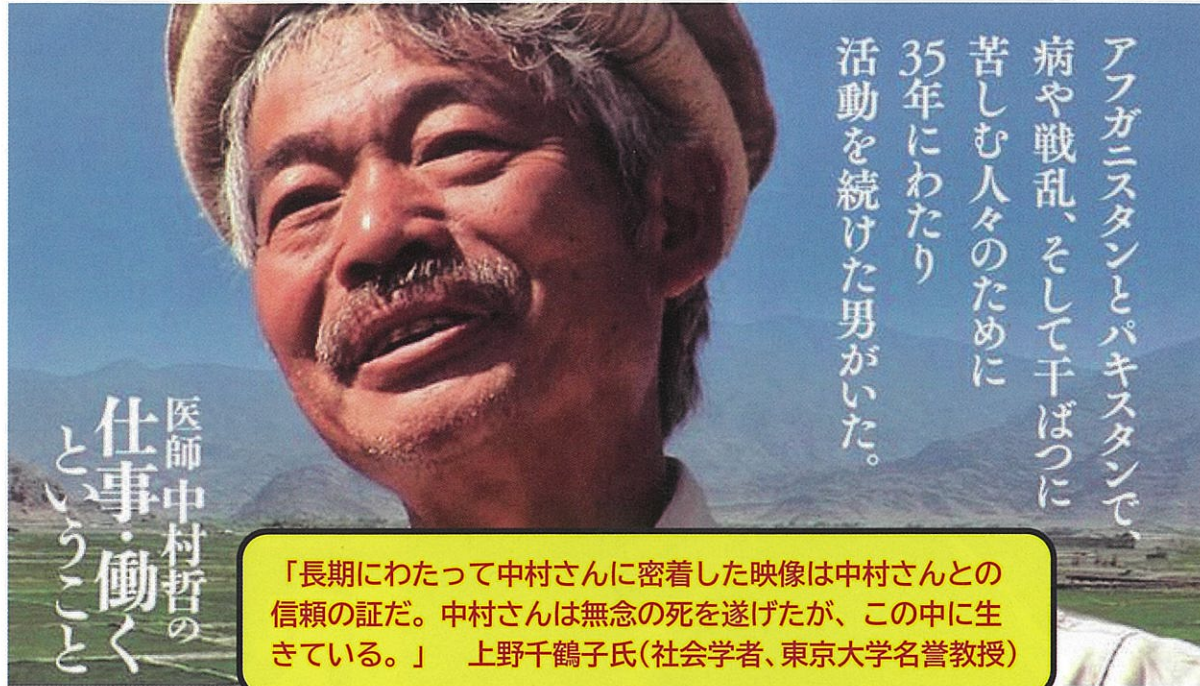
写真・映像提供◎ベシワール会/PM S

企画・提供◎日本労働者協同組合(ワーカーズ・コップ)連合会・センター事業団

一般社団法人 日本社会連帯機構

製作◎日本電波ニース社 HD/16:9/カラー/47分





医師中村哲の
仕事・働く
ということ

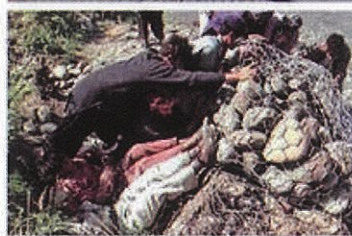
アフガニスタンとパキスタンで、
病や戦乱、そして干ばつに
苦しむ人々のために
35年にわたり
活動を続けた男がいた。

「長期にわたって中村さんに密着した映像は中村さんとの信頼の証だ。中村さんは無念の死を遂げたが、この中に生きている。」 上野千鶴子氏(社会学者、東京大学名誉教授)

1984年に医療支援をスタートし、干ばつ対策用の用水路建設、農村復興へと活動を広げた中村哲医師、その歩みは35年に及んだ。中村医師はまず現地の言葉を覚え、現地の人々との対話を通じ、信頼を重ねていく。「私たちに確乎とした援助哲学があるわけではないが唯一譲れぬ一線は「現地の人々の立場に立ち、現地の文化や価値観を尊重し、現地のために働くこと」である」用水路建設では自ら設計図を引き、重機を運転し、泥にまみれて一緒に作業する。その作業には貧しさゆえにタリバンに参加していた農民も参加していた。「己が何のために生きているかと問うことは徒勞である。人は人のために働いて支え合い、人のために死ぬ。



そこに生じる喜怒哀楽に翻弄されながらも、結局はそれ以上でもそれ以下でもない」荒れ果てた大地は蘇り、農作物は実り、65万人の生活を支えている。
親子で収穫し、家族で食事をする風景は眩しい。
中村医師は言う「これは人間の仕事である」



日時:2025年5月17日(土)会場 13:00 開演 13:30
会場:越前市文化センター 大ホール(越前市高瀬2丁目 3-3)
参加費:一般 1,000 円 高校生 500 円 中学生以下無料
上映 (47 分) 後アフタートーク

「我がまちの地域づくり・まちづくりを考える」
越前市「みんなの食堂」実行委員会 代表 野尻 富美 氏
越前市社会福祉協議会 在宅福祉部 課長 大塚 陽子 氏
(労協) ワーカーズコープのびっ子クラブ清明 責任者 菅沼 渉

お申込み・お問い合わせ お申込み締切日5/15(木)

お申込みフォーム

労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団 福井事業所
〒918-8057 福井市加茂河原 2-10-16
TEL 0776-36-8381 メール fukui@roukyou.gr.jp
FAX 0776-43-1744 【生協受付番号】003905



<https://forms.gle/23eyxaFmDWe2f6Yi6>

氏名		所属		連絡先	
----	--	----	--	-----	--

主催: 労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団 福井事業所
協力: ふくい協同労働推進ネットワーク 後援: 福井県、越前市、鯖江市、福井県民生活協同組合、福井新聞社